

今冬の年末手当減額に関する協定の一部改訂にあたって

J R 西労組運動に対するご理解、ご協力に感謝します。そして、新型コロナウイルス感染の不安の中、業務にご精励頂いていることに対して敬意を表します。

さて、本日、J R 西日本グループの未曾有の経営危機を受け、2020 春闘時に妥結した今冬の年末手当を 1.19 ヶ月減額し、1.5 ヶ月支給とすることについて合意しました（年間 4.19 ヶ月）。

9 月 9 日の協定見直しの覚書締結以降、中央本部は各地本・総支部の緊急支部・分会代表者会議、各支部大会などに出向き、J R 西日本グループの取り巻く環境、経営状況などを共有するとともに、組合員の雇用と生活を守る基本姿勢について再確認し、会社に対し組合員の切実な声を届け、雇用と生活を守る重要性について労使で理解を深めてきました。

9 月 16 日に公表した今年度の通期見通しは、連結経常赤字 3,050 億円、最終損失 2,400 億円という衝撃的な数字でした。一方で、9 月の 4 連休は多くの行楽地が賑わいを見せ、新幹線・特急のご利用も前年比 5 割まで戻り、微かに希望の光が差し始めましたが、運輸取扱い収入の年度累計は未だ 4 割と会社存続に赤信号が灯っている状況に変わりはありません。

会社は、通期見通しの中で、700 億円のコスト削減（連結）と株主配当の大幅な減額（45%減）を明らかにしましたが、中央本部として、会社の存続と組合員の雇用維持のためには、聖域なきコスト削減が不可避であると判断し、減額の決断に至りました。1.5 ヶ月は、組合員の生活設計、将来不安解消のために譲れない水準であり、そのことは労使で認識を共有しているところであり、組合員皆さんの理解を求めるものです。こうした決断を下した以上、今年度の赤字幅を可能な限り縮小し、来年度あるいは再来年度には何としてでも黒字転換し、待遇改善を果たす決意と覚悟を表明するものです。

先の見えない茨の道が続きますが、明けない夜はありません。私たち一人ひとりが出来ることを実践し、未来を切り拓かなくてはなりません。今こそ、J R 西労組、J R 西日本連合の総団結が求められています。安全を基礎に、労働組合の本分である助け合い、支え合いの精神を胸に、明るい未来を信じてともに頑張りましょう。

2020 年 10 月 2 日

西日本旅客鉄道労働組合（J R 西労組）
中央執行委員長 上村 良成